

いきいき まえばし人



源氏物語を現代詩で朗読
大和 祥子さん・68歳
日吉町三丁目

みやびな世界を言葉に乗せて

約1,000年前、紫式部によって書かれた源氏物語。これを現代詩に訳した、故鈴木比呂志さん著の「源氏物語現代詩訳」を朗読で伝える。「原作と現代詩、両方の雰囲気壊さないよう気を付けて朗読しています。内容を理解して、初めて美しく読めるようになります。聞いてくれている人に、本当の物語を伝えたいんです」

大学卒業後、大阪のテレビ局アナウンサーとして活躍し、フリーに転身。ラジオ番組で昔話の語り部をするうち、朗読の奥深さに魅せられていった。そんな中、以前のからの知り合いだった鈴木さんが源氏物語の研究をしていると知り、運命とも言える出会いを果たす。「自分でも気が付かないうちに、

どんな物語の世界に引き込まれていきました。小宇宙と言ってもいいほど、たくさんの魅力を持っている源氏物語。今ではその中に身を置くだけで幸せです」
年に1度、「歌と語りで綴る源氏物語」と題し、全54帖を10回に分けて公演している。現代詩に歌を乗せ、語りで解説するスタイルは好評を得ている。

「5月15日の公演で、9回目を迎えました。来年はいよいよ源氏物語の54帖すべてを語り終えます。今は最終公演が成功するよう、全力を尽くしたいと思っています」

生活のすべてが源氏物語であふれているという大和さん。次はどんな活動を展開してくれるのか期待したい。



浄水場を彩るツツジの競演

5月3日から5日まで、敷島浄水場の一般開放が行われました。赤やピンクなどのツツジ約40種370本が会場に咲き誇り、初夏の彩りを演出。また、浄水場の見学や水の試飲会など、さまざまな催しも行われ、連休中、多くの家族連れなどが楽しい時間を過ごしました。

グロースアップ



地域づくりの活動を発表

4月24日、総合福祉会館でまえばし地域づくり推進大会が開かれました。市民が取り組む地域づくりの活動や地域の魅力をPR。昨年度指定されたモデル地区の成果発表やパネルディスカッションが行われ、参加者は地域づくりについて理解と関心を深めていました。

わたしたちの学校 ニュース

地域と共に歩んで

わたしたちの二中には、他校に自慢できる、伝統的な活動が2つあります。

1つ目は花いっぱい活動です。花を育てる素晴らしさを感じ、地域の人たちに日ごろの感謝の気持ちを伝えるために行っています。種から花を咲かせるまで、アサガオやパンジーなどのさまざまな種類を、愛情を持って育てています。土にもこだわりを持ち、栄養分を豊富に含んだ養土を使用しています。地域への配布活動では、花と同時に笑顔も配り、交流を深めています。この活動は、花だけでなく、



丹精込めて育てます

生徒会長 金井 慧斗さん
く、わたしたち自身の豊かな心を育てる場にもなっています。
2つ目は地域美化活動です。これは、毎年夏休みに自治会と協力して行われる奉仕活動です。中にはわたしたち中学生にはできない危険な道具や自動車を使う作業もあります。そんなときには地域の人たちが協力してくれるので、とても感謝しています。このほか、地域の行事にも積極的に参加し、交流に力を入れています。



みんなで力を合わせて

今、二中では60余年の歴史に幕を閉じ、新たな学校として再出発するという話が進められています。わたしたちは二中学生として、最後までこの伝統ある活動をしっかりと守りたいと思います。そして、それを誇りに新たな学校へバトンを引き継げるよう頑張ります。

快晴の利根川沿いをさわやかに

第11回前橋シティマラソンを4月25日、グリーンロード前橋を発着点に開催しました。ことしのニューイヤークラッシュを優勝した日清食品グループの小野裕幸選手や友好都市のアメリカ・バレーミング・ハム市からも5人が参加。全国から訪れた5,435人が、青空の下、さわやかな汗を流しました。

